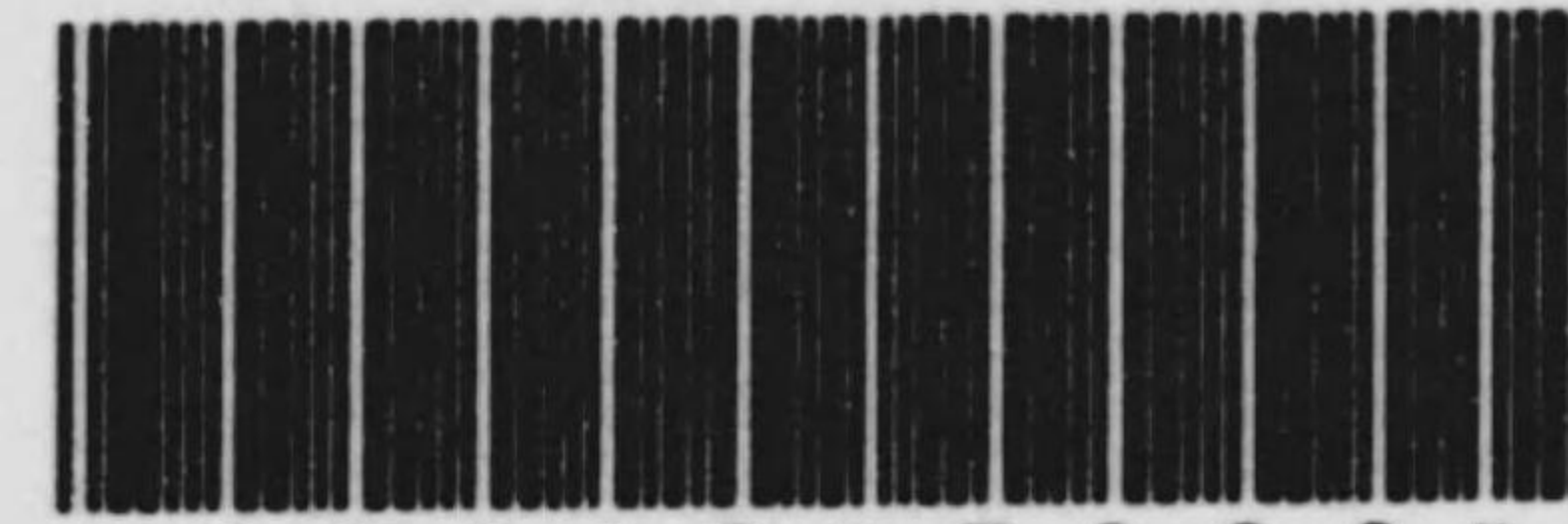


21

特 253

251

岡田内閣施政方針



* 0004615000 *

0004615-000

特 253 - 251

岡田内閣施政方針

昭和会・編

昭和会

昭和 1 1

ABC

時253
251

總理大臣ノ演說



昨秋ハ畏クモ第二皇子義宮正仁親王殿下ノ御誕生ヲ拜シマシテ、諸君ト共ニ謹ンデ
竹ノ園生ノ御榮ヲ慶祝ス奉リ、皇運愈々隆ナランコトヲ祈リ奉ル次第デアリマス。

私ハ現下ノ時局ニ處シ、内、國力ヲ充實シ、外、國運ヲ伸張スルノ所以ノ途ハ、
ニ舉國一致協心戮力スルノ外ナキヲ確信スルモデアリマシテ、組閣以來閣僚相率
テ彌々奉公ノ志ヲ堅クシ、赤誠以テ 聖明ニ應ヘ奉ランコトヲ期シ、組閣ノ當初ニ公

表致シマシタル政綱ヲ實現スル爲メ夙夜勉勵致シテ居ル次第デアリマス。

先ヅ世界ノ情勢ヲ見マスルニ、政治上經濟上、必シモ平穩圓滑ナリトハ謂ヒ難キ事
象モ存スルノデアリマスガ、其間ニ於テ、帝國ハ能ク列國トノ親善關係ヲ進メ、其國
際的地位ノ益々向上シツ、アリマスルコトハ、衷心欣快ニ堪ヘナイ所デアリマス。帝



國ガ平和保持ノ重責ヲ擔ソテ居リマスル東亞ニ於キマシテハ、滿洲帝國ガ著々健全ナル發達ヲ遂ゲ、東亞安定ノ礎石タル日滿兩國ノ不可分關係ガ益々鞏固ヲ加ヘツ、アルコトハ、私ノ最モ喜トスル所デアリマス。而シテ吾々ハ忠勇ナル皇軍將士ガ引續キ現地ニ於テ、困苦ノ中ニ其重責ヲ盡シツ、アルコトヲ忘レテハナラナイノデアリマス。更ニ東亞ニ於ケル眞ノ安定ヲ確保センガ爲ニハ、日滿支三國ノ根本關係ガ調整確立セラレ、三國ノ提携共助ガ完成セラル、ノ要アルヲ信ズルモノデアリマス。同時ニ、日滿蘇三國關係ノ調整モ亦東洋平和ノ爲メ極メテ重大ナル要件ナルヲ思ヒ、政府ハ銳意是等ノ實現ヲ期シテ居ル次第デアリマス。

海軍軍備制限ノ問題ニ付キマシテハ、帝國ハ夙ニ國防ノ安固ヲ確保シ、關係各國間ニ不脅威不侵略ノ原則ヲ確保スルト共ニ、最モ公正妥當ナル方式ニ依リ、軍備ノ縮小ヲ實現スルコトヲ根本方針トシテ、熱心ニ新協定ノ成立ニ努力至シテ參ツタノデアリマシテ、客年十二月九日以來、倫敦ニ於テ開催セラレマシタル五箇國ノ會議ニ於キマシテモ、帝國代表ハ此方針ヲ體シテ全力ヲ傾倒至シタノデアリマス。然ルニ帝國ノ主

張ハ他ノ關係各國ノ諒解ヲ得ルコト能ハズ、遂ニ會議ヲ脱退スルニ至リマシタコトハ私ノ頗ル遺憾トスル所デアリマス。帝國ト至シマシテハ列國間ニ於テ公正妥當ナル海軍軍備縮小ノ實現ヲ希望スル誠意ニ於テハ、毫モ變リハナイノデアリマシテ、私ハ將來直チニ各國間ニ建艦競争等ヲ誘發シ、國際情勢ニ變化ヲ生ズルモノトハ信ジマセヌケレドモ、帝國國民ト至シマシテハ、今後ニ善處スベキ十分ノ覺悟ガナケレバナラナイト思フノデアリマス。

之ヲ要シマスルニ、帝國外交ノ根本方針ガ益々列國トノ和親ヲ敦クシ、常ニ協同シテ世界平和ノ確立、人類福祉ノ増進ニ貢獻セントスルニアリマスルコトハ、改メテ申ス迄モナイ所デアリマシテ、今後彌々其實ヲ舉ゲンコトヲ期スル次第デアリマス。唯今日四圍ノ情勢ニ應ジテ、必要ナル陸海ニ於ケル國防ノ施設ヲ忽ニスルコトノ出來ナイコトハ、又申ス迄モナイ所デアリマス。

籲ツテ國內ノ情勢ヲ見マスルニ、我國經濟界ハ官民ノ施設努力竝ニ事態ノ變化ニ依リマシテ、世界各國ニ魁ケテ、景氣ノ回復ヲ見マスルコトハ、洵ニ御同慶ニ堪ヘナイ

所デアリマス。即チ商工業ハ漸ク活況ヲ呈シ、殊ニ貿易ハ近年稀ニ見ル盛況デアリマシテ、輸出入ノ均衡ニ付テモ改善ノ跡、洵ニ著シイモノガアリマス。洵ニ著シイモノノガアリマス。コトハ、我が國力ノ増進ヲ示スモノトシテ慶ビニ堪ヘマセヌ。窮乏ノ殊ニ甚シカツタ農村方面ニ於キマシテモ、其不況稍々緩和ノ兆ヲ示シテ居リマス。一般ニ失業者ハ減少シ、國民ノ貯蓄力及購賣力ハ増加致シテ居リマス、政府ハ國運發展ノ基礎ハ實ニ國家經濟力ノ充實ニアルコトヲ確信シ、常ニ時勢ノ進運ニ應ジ、經濟上、産業上必要ナル施設ヲ行フニ於テ能フ限リノ力ヲ致シ、現ニ好轉シツ、アル景況ヲ持續セシムルノミナラズ、更ニ之ヲ助長センコトヲ期シ、是ガ爲メ諸般ノ計畫ヲ樹立致シテ居ル次第デアリマス。

先ヅ外國貿易ノ振興ニ付キマシテハ、通商自由ノ回復ヲ目標トシ官民相協力シテ現今ノ複雑微妙ナル國際情勢ニ善處シ貿易上ノ障礙除去ト、新市場ノ開拓トニ努ムルト共ニ、内ニ於テ是ガ調整改善ノ爲メ必要ナル方策ヲ講ジツ、アルノデアリマス。

次ニ國內産業ノ改善振興ニ付キマシテハ、一般ニ各當事者ノ自力ニ依ル發展ヲ基トシ、綜合的見地ニ立ツテ必要ナル統制ヲ加ヘ、又助成ヲ爲スノ方針デアリマスガ、差

當ツテ政府ハ重要産業統制ニ關スル法律ヲ改正シテ、是ガ施行期間ヲ更ニ五箇年延長シ、新ニ商工組合中央金庫ヲ設立シ、米穀、蠶絲、肥料ニ付テハソレ々對策ヲ樹立シ、農山漁村ノ經濟更生計畫ヲ擴充シ、農山漁家ノ負債整理ニ付テ更ニ一步ヲ進メ、又現下内外ノ情勢ニ察シ液體燃料ノ自給促進、自動車工業ノ確立ヲ圖リタイト考ヘテ居リマス。特ニ東北地方ハ災害相踵ギ、其經濟振興ニ付テハ根本的綜合的ナル計畫ヲ樹立スル必要ガアリマス。曩ニ設ケマシタ東北振興調査會ノ外、更ニ内閣ニ東北振興事務局ヲ設ケテ、方策ノ樹立ト實施トニ力ヲ盡スコトニ致シ、明年度ニ於キマシテモ各方面ニ亘ツテ、必要ナル計畫ヲ實施スル豫定デ居リマス。本年度ニ於キマシテモ、全國各地ニ亘リ相踵イデ洪水ノ被害ガアリマシタガ、政府ハ其都度救濟ニ努ムルト共ニ、必要ナル善後措置ヲ講ジタノデアリマス。而シテ各種災害ノ頻發ハ、雷ニ人心ヲ不安ナラシムルノミナラズ、國民經濟上至大ナル障礙ヲ爲スモノナルニ鑑ミ、災害ノ防止輕減ニ付テ、此際恒久的對策ヲ樹立致シタイト考ヘテ居リマス。又政府ハ別ニ救護ニ關スル事項、馬政ニ關スル事項、森林治水ニ關スル事業、民間航空ノ發展促

進、鐵道新線ノ敷設、移植民特ニ滿洲移民及海外拓殖ノ保護指導獎勵等ノ事項ニ付テモ、ソレ々適當ナル計畫ヲ樹立セント致シテ居リマス。

國策ノ基調タルベキ大計ヲ綜合的ニ審定スルコトハ、現下我國内外ノ情勢ニ稽ヘ、其要甚ダ緊切ナルヲ認メ政府ハ其機關トシテ第六十七議會ノ協賛ヲ經テ、內閣審議會及內閣調査局ヲ設置致シ、現ニ廣ク各般ノ事項ニ付テ調査ヲ進メ、根本的ノ方策樹立ニ力ヲ盡シテ居リマス。內閣審議會ニ於テハ目下政府ノ諮問ニ應ジテ、中央地方ヲ通ズル財政改善ノ根本方策竝ニ文教ヲ刷新スルノ根本方策ニ付テ、銳意調査審議中デアリマス。右ノ二點ハ我國ノ現狀ニ於テ最モ緊要ニシテ、政府ガ一日モ速ニ是ガ確立ヲ期シテ居ルノデアリマス、尙ホ審議會ハ既ニ地方財政ノ問題ニ付テ、傾聽スベキ意見ノ中間報告ヲ爲ス所ガアリ、政府ガ近ク實行セントスル窮乏町村ニ對スル財政援助ニ關シ、重要ナル參考トナツタノデアリマス。

次ニ第六十七議會ニ於ケル貴族院ノ政教刷新ニ關スル建議竝ニ衆議院ノ國體ニ關スル決議ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテモ夙ニ國體觀念ヲ明徴ナラシムルコトヲ、

重要政綱ノ一ト致シテ居ル次第デアリマスカラ、十分其趣旨ヲ尊重シテ、著々其實現ニ努メテ居ルノデアリマス。其爲ニ政府ハ曩ニ意ノ在ル所ヲ宣明シ、其徹底ニ勉ムル爲メ各般ノ措置ヲ講ジ、又教學刷新評議會ヲ設ケ我が國體及ビ日本精神ヲ基トシテ、我國教育竝ニ學問ノ眞ノ刷新興隆ヲ圖ランコトヲ期シテ居ルノデアリマス。

以上申述ベマシタル施設ノ方針ニ基キ、政府ハ昭和十一年度ノ豫算ヲ編成致シマシタ、即チ一般會計ノ豫算總額ハ歲入歲出各々二十二億七千八百餘萬圓デアリマス。歲出ニ於テ多額ノ國防費ガ計上サレテ居リマスルコトハ、申ス迄モナク現下ノ國際情勢ノ然ラシムル所デアリマシテ、一面産業其他ノ方面ニ付テモ能フ限りノ考慮ヲ拂ヒ、上ニ述ベマシタル諸種ノ計畫ニ付キソレ々相當ノ經費ヲ計上致シマシタ。蓋シ國家ノ現狀ニ於テ最モ妥當ナル豫算編成ヲ爲シ得タルモノト信ジマス。歲入ノ不足ハ、一般會計及特別會計相互間ノ調整ニ依テ其一部ヲ補填シ、殘餘ハ公債財源ニ依ルコト、致シマシタ。公債ノ發行額ニ付キマシテハ、政府ハ國家財政ノ現狀ニ鑑ミ、公債ニ對スル信用保持ノ爲メ出來得ル限り之ヲ増加セシメザル方針デアリマス。

次ニ選舉肅正ノ事ニ付テ申述ベタイト思ヒマス、政府ノ嚴肅公正ヲ確保シ國政ニ對スル國民ノ信賴ヲ維持致シマスルニハ、選舉ヲ肅正シ、是ガ弊竇ヲ芟除スルノ必要ナルコトハ申ス迄モアリマセヌ、仍テ政府ハ夙ニ選舉ニ關スル弊害ノ防止及公正ナル選舉觀念ノ普及等、各般ノ選舉肅正運動ニ力ヲ致シテ居ルノデアリマス。現ニ過般ノ府縣會議員ノ選舉ニ際シテハ、選舉ニ關スル國民ノ理解ト認識トヲ深メ、多大ノ效果ヲ舉グルコトヲ得タノデアリマスガ、本年ハ近ク衆議院議員ノ選舉ガ行ハレルコトデアリマスルガ故ニ、朝野一致ノ協力ニ依リ一層選舉當事者ノ自覺ヲ進メ、一面適正ナル取締ヲ施行シ、由テ以テ眞ニ肅正ノ實ヲ舉ゲンコトヲ期スル次第デアリマス。

諸君、帝國ノ世界ニ於ケル使命ハ、今ヤ愈々且大ヲ加ヘテ參リマシタ。此使命ヲ達成スルノ途ハ、一ニ國ヲ舉ゲテ益々國民精神ヲ振張シ、國力ヲ充實スルニ在ルノミト信ジマス。政府ハ之ガ爲メ政教其他百般ノ事項總テ萬邦無比ナル我が國體ノ本義ヲ基トシ、其眞髓ヲ顯揚スルコトヲ旨トシテ、曩ニ國際聯盟脫退ニ際シ下シ賜リタル詔書ノ聖旨ヲ奉體シ、彌々奉公ノ誠ヲ效サンコトヲ期スル次第デアリマス。

以上政府ノ所見ノ大要ヲ申述ベマシタ、何卒政府ノ意ノ在ル所ヲ諒トセラレンコトヲ望ミマス（拍手）

外務大臣ノ演說

帝國ノ外交ニ付キマシテ茲ニ最近ノ經過ヲ述べ、且ツ所見ヲ開陳スルヲ得マスコトハ、私ノ光榮トスル所デアリマス。

近時帝國ノ國際的地位ハ益々向上シ、其責任モ愈々重大ヲ加ヘツ、アルノデアリマスガ、幸ニ眞ノ世界平和ノ確保ニ貢獻セントスル帝國ノ意圖ハ漸次世界ニ徹底シ、特ニ帝國ガ東亞ノ安定ノ爲ニ専心努力致シテ居リマスコトハ、各國モ之ヲ認識スルニ至リマシテ、我が善隣關係ノ確立ガ次第ニ實現ヲ見ントシテ居リマスコトハ、誠ニ慶賀ニ堪ヘヌ所デアリマス。

先ヅ我が盟邦滿洲國ガ、年一年進歩發達ヲ遂ゲツ、アリマスコトハ、大ニ喜バシキコトデアリマスノミナラズ、帝國トノ關係ニ於キマシテハ一層緊密ノ度ヲ加フルノ狀

況デアリマスカラ、帝國ハ同國ニ於テ有スル治外法權ヲ漸進的ニ撤廢シ、且ツ之ニ應ジテ滿鐵附屬地ニ於ケル行政權ヲモ漸次ニ調整スルコト、シテ、以テ滿洲國ノ獨立發展ニ寄與センコトヲ期シテ居ルデアリマス。帝國ト滿洲國トノ緊密不可分ノ關係ハ曩ニ建國ノ際成立シタル共同防衛等ノ外、更ニ經濟方面ニ於キマシテモ、兩國ガ相寄與スルノ當然ナルニ願ミマシテ、茲ニ日滿經濟共同委員會ノ設立ヲ見ルニ至ツタノデアリマス。此新興滿洲國ノ嚴然タル存立ト、其健全ナル發達トハ、眞ニ東亞安定ノ前提條件デアリマシテ、更ニ進ンデ其目的ヲ完全ニ達成スル爲ニハ、同國ニ於テ其國際的地位ヲ更ニ向上セシムルト共ニ、其接壤諸國トノ善隣關係ヲ益々増進スルコトニ努力セネバナラヌト思フノデアリマス。換言シマスレバ、一方日滿支三國ノ關係ヲ調節シ、他方日滿「ソ」三國ノ關係ニ善處スル爲、最大ノ努力ヲ拂ハナケレバナラヌ次第デアリマス。

先ヅ日滿支三國ノ關係ニ付テ見マスルニ、其關係ハ次第ニ改善セラレツ、アルノデアリマスガ未ダ常道ニ復シテ居ルト云フコトハ出來ナイノデアリマス、仍テ此三國間

ノ關係ヲ更ニ一步進メ、之ヲ完全ニ平常化シテ、以テ東亞安定ノ基礎ヲ一層鞏固ニスルノ必要ナルヲ痛感スルノデアリマス、是ニ於テ帝國政府ハ慎重審議ヲ經マシテ確定的ノ對支方針ヲ樹立致シタノデアリマス、此方針ハ大體ノ三ツノ趣旨ヨリ成ツテ居ルノデアリマス。

其第一點ハ日支兩國ノ關係ノ根本的調整ニ關スルモノデアリマシテ、即チ支那ハ如何ナル形ニ於テモ是マデノヤウナ非友好的行爲及政策ヲ執ラズ、又單ニ消極的ニ斯ル行爲及政策ヲ執ラザルノミナラズ、日支兩國ハ進ンデ親善提携ノ實ヲ示スベク積極的ニ協力ヲ行フヤウニシヨウト云フ趣旨デアアルノデアリマス。日支兩國ガ互ニ對立スルコトハ、雙方ニ取り不爲メデアルコトハ勿論、東亞ノ大局ヨリ申シマシテモ、到底忍ブコトノ出來ヌ所デアリマス、若シ支那ニシテ帝國ニ對シ非友誼的行動ニ出デ、又ハ徒ニ第三國ヲ利用スルノ常套手段ヲ用ヒ、以テ東亞ノ安定ニ逆行スルガ如キコトガアリマスナラバ、ソレハ眞ニ遺憾ニ堪ヘザル所デアリマス。併ナガラ若シ支那ニ於テ此點ニ村キ十分覺醒シ來リマス場合ニハ、帝國ハ支那ノ發展ノ爲ニ有形無形ノ支援ヲ爲

スノ用意アルコトハ勿論デアリマス。帝國トシマシテハ、從來如上ノ大局的見地ヨリ
 隱忍自重シテ、支那側ノ自省ヲ促シ、且ツ東亞ニ於ケル其責任ニ對スル自覺ヲ誘ヒ、
 以テ其對日政策ノ轉向ヲ俟ツテ居ツタノデアリマス、支那側ニ於キマシテモ漸次此大
 局ヲ看取シマシテ、約一年前ヨリ日支關係改善ノ意思ヲ表示シ參ツタノデアリマス。
 帝國政府ハ曩ニ第六十七議會ニ於テ、隣邦ニ對スル不脅威不侵略ノ根本政策ヲ宣明シ
 マシテ、更ニ其機會ヲ利用シマシテ、兩國ノ國交ヲ常道ニ復シ、兩國ノ利害ノ調整ヲ
 進メント努力致シタ次第デアリマスガ、此點ニ關シテハ遺憾ナガラ今日マデ未ダ十分
 ノ成果ヲ見ナカツタ狀況デアリマス、抑々日支ノ關係ヲ完全ニ常道ニ復シマス爲ニハ
 支那ト滿洲國トノ關係ヲモ常軌ニ上セナケレバナラヌコトハ當然デアリマス。就中日
 滿支三國ノ各種ノ利害ガ直接接觸致シテ居リマスル北支方面ニ於テハ、特ニ其必要ヲ
 感ズルコト大ナルモノガアリマス。然ルニ支那側ガ未ダ北支ト接壤セル滿洲國ヲ承認
 シテ居ラナイト云フ事實ニ加フルニ、北方ニ於ケル長キ間ノ地方的特殊ノ傳統ニ基因
 致シマシテ、北支方面ニ於テハ一時相當不安ノ空氣ヲ見タノデアリマスガ、是モ最近

ニ於テハ御承知ノ通り、河北察哈爾二省ニ於ケル冀察政務委員會ノ設立ニ依リマシテ
 形勢ハ大ニ緩和致シタ次第デアリマス、以上ノ通り單ニ日支ノ直接ノ關係ノミナラズ
 日滿支三國ノ關係ヲ同時ニ調整シナケレバ、ドウシテモ其安定ヲ得ルコトガムヅカシ
 イ譯デアリマスノデ、此目的ヲ達成セントスルノガ我が決定方針ノ第二ノ點デアリマ
 ス。即チ日滿支三國ノ關係ヲ完全ニ調整スル爲ニハ、先ヅ支那ガ滿洲國ノ存立ヲ承認
 シ、是ト國交ヲ樹立シ、進ンデ雙方利害ノ關係ヲ調和シテ行カナケレバ、根本的ニハ
 解決ハ出來ナイ譯デアリマス。從テ一日モ速ニ其時機ノ到來ヲ望ム次第デアリマスガ、
 ソレ迄ノ期間ニ於テモ、何等カ日滿支三國ノ關係ヲ惡化サセナイヤウナ、手段方法ヲ
 執ルノ必要ガアルト云フ趣旨デアリマス。

今日支那ノ直面致シテ居リマスル困難ノ最モ大ナルモノハ、共產主義ノ運動ト思ハ
 レマス。而シテ東亞ノ不安定ハ赤化運動ノ正ニ乘ズベキ點デアリマシテ、支那ノ如キ
 ハ其邊境地域ハ勿論、内部ノ社會組織ニ於テモ甚シク其脅威ヲ受ケテ居リマシテ支那
 ニ於ケル赤化分子ノ跋扈ハ想像以上ト思ハル、ノデアリマス。抑々赤化運動ノ危険ハ

東亞ニ限ラル、譯デハアリマセヌガ、東亞ノ天地ハ今日特ニ其活躍ヲ見テ居ルヤウデアリマス。是ニ於テ吾人ハ東亞ノ安定、否、世界ノ安定ノ爲ニ此東亞ニ於ケル赤化運動ヲ防止シ、支那ヲ其危険ヨリ免レシムルト云フコトハ、單ニ隣邦支那ノ爲ノミナラズ、各國共通ノ重大事デナケレバナラヌデアリマス。是ガ今回決定致シマシタル方針ノ第三點デアリマシテ、即チ帝國ハ赤化防止ノ爲ニ支那ト種々ノ協力ヲ行ヒタイト云フ趣旨デアリマス。

以上ノ三點ハ帝國政府ノ確定方針デアリマスケレドモ、實ハ特ニ新ナル考案デアリマセヌ、一ニ東亞安定ノ大目的ヲ達スル爲ノ當然ナル基礎的觀念ニ過ギナイデアリマシテ、隨テ其精神ハ東亞ニ國ヲ成スモノ共通ノ方針ト謂ツテモ差支ハナイデアリマス。支那政府モ此點ハ十分諒解シマシテ、既ニ右三原則ニ賛意ヲ表シ、更ニ進ンデ最近ニ至ツテ右三原則ノ趣旨ニ則リ、日支親善提携ノ交渉ヲ開クコトヲ提議シテ參ツタデアリマス。帝國政府ハ固ヨリ之ニ異存ハナイ次第デアリマスガ、最近支那ニ於ケル學生ノ排日運動ノ如キ、直チニ右原則ノ趣旨ニ反スルガ如キ事態ガ發生致シテ

居リマスコトハ遺憾ナコトデアリマス。併シナガラ是等ノ事態モ遠カラズ支那政府ノ措置ニ依テ是正セラレ、茲ニ良好ナル空氣ノ下ニ交渉ガ開始促進セラレンコトヲ期待シテ、支那側ノ申込ニ賛成シ、支那政府ノ交渉開始ノ準備完了ノ通報ヲ俟ツテ居ル次第デアリマス。若シ此交渉ガ漸次ニ進ンデ參リマスナラバ、茲ニ日支關係ノ根本調整ノ基礎ガ出來ルコトト信ズルデアリマス。

次ニ日滿「ソ」三國ノ關係ニ付キマシテモ、帝國政府ハ常ニ平和親善ノ確立ニ向ツテ努力シテ參ツタデアリマシテ、北鐵買收交渉ノ成立致シマシタコトハ、三國ニ跨ル多年ノ障礙ヲ排除シ得タモノデアリマシテ、又元來帝國ハ滿洲國ノ爲ニハ共同防衛ノ責任ヲ持ツテ居リマス關係上、滿洲國ト隣接國トノ政治上軍事上ノ關係ハ、自動的ニ帝國ニ直接ノ影響ヲ及ボス譯デアリマスカラ、此意味ニ於キマシテ日滿「ソ」三國關係ニ對シマシテハ、特殊ノ注意ヲ要スル所デアリマス滿洲國ト「ソ」國トノ間ニ於キマシテハ、其長イ共通ノ國境線ニ於キマシテ、國境ノ不明確ナル地點モアリマスノデ、動モスレバ紛争ヲ生ズルデアリマス。是等ニ對シテハ紛争解決ヲ目的トスル

混合委員會ノ設定ガ問題トナツテ居リマスガ、滿洲國政府トシマシテハ、先ヅ國境ノ曖昧ナル點ヲ明確ナラシムルコトノ必要ヲ主張シテ居ルデアリマス、唯茲ニ日滿「ソ」三國ノ關係ニ於キマシテ、特ニ吾人ノ寒心ニ堪ヘザルコトハ「ソ」國ガ其邊境植民地デアル東部「シベリヤ」ニ過大ナル軍備ヲ整ヘツ、アルコトデアリマシテ、是ハ直接滿洲國民ハ勿論我が帝國國民ニ對シ多大ノ刺戟ヲ與ヘツ、アリマスノデ、此點ニ付キマシテハ折ニ觸レ「ソ」國當局ノ深甚ナル考慮ヲ求メテ居ル次第デアリマス。

客年十二月九日以來倫敦デ開カレマシタ海軍軍縮會議ハ、帝國政府ノ大ニ重要視シテ居ツタ所デアリマスガ、今回帝國全權ハ遂ニ同會議ヨリ脫退スルニ至リマシタコトハ御承知ノ通りデアリマス。同會議ニ於ケル帝國政府ノ根本方針ハ、一昨年ノ倫敦豫備交渉ノ當時ニ申上ゲマシタ所ト異ナラヌ次第デアリマシテ、客年ノ十二月ニ英國政府ヨリ會議開催ノ準備ヲ進ムル爲ニ、建艦宣言案及質的軍縮問題ニ關シマシテ帝國政府ノ意嚮ヲ求メテ參リマシタノデアリマスガ、實際ノ回答中ニ帝國政府ノ見解ト致シマシテ「眞ニ世界ノ平和ヲ維持促進スルノ方法ハ、各國ガ相互ニ其生存ト必然的需要トニ

十分ナル考慮ヲ加フルト共ニ、他方各國間ニ不脅威不侵略ノ事態ヲ招來セシムベキ徹底的ノ軍縮ヲ行フコトヲ主トセナケレバナラヌ、大國ハ此見地ニ基キテ率先シテ之ニ努力シ、平和促進ニ邁進スルコトヲ要スルノデアアル、帝國政府ノ海軍軍縮ニ對スル根本主張ハ、正ニ此徹底的ニ軍縮ヲスルト云フコトニ外ナラナイト云フ旨ヲ特ニ明ニシテ置イタ次第デアリマス。今次會議ニ於キマシテ、帝國全權ハ此精神ニ基キマシテ出來ルダケ低キ共通最大限度ヲ定ムルト共ニ、攻撃的性能ヲ有スル主力艦、航空母艦ノ廢止及甲級巡洋艦ノ大縮減ヲ行ハントコトヲ提議シタノデアリマシタ。然ルニ帝國全權ノ努力ニモ拘ラズ、我方ノ公正妥當ナル根本主張ハ各國ノ容ル所トナラズ、又各國ノ提案モ我方ノ根本方針ト合致セザルコトガ明トナリマシタカラ、セメテ會議ニ於テ協定トシテ、纏メ得ベキ事項ハ之ヲ纏メテ、圓滿ニ會議ヲ終始セシメンコトヲ努メタ次第デアリマスガ、是亦各國ノ認ムル所トナラナカツタ爲ニ遂ニ帝國全權ハ會議ヨリ脫退スルノ己ムナキニ至ツタノデアリマス。現今世界ノ情勢ヲ見マスルニ、各所ニ於テ不安ト葛藤ガアリマシテ、各國ハ軍口軍備ノ充實ヲ圖ラントスル傾向ガアリマシテ、

是ガ爲ニ軍縮ノ精神ハ阻害セラレ、徹底的ニ軍縮ヲ行ハントスル帝國案ノ容認セラル、ニ至ラナカッタ一因トナツタト思フノデアリマス、併シナガラ帝國政府ハ軍縮條約ノ有無如何ニ拘ラズ、不脅威不侵略ノ精神ヲ尊重スルノデアリマシテ、何等軍備競争ヲ誘發セントスル如キ意思ハナイノデアリマス。且又世界平和ノ爲ニ軍縮事業ニ協力セントスル素志ニ何等變更ハナイコトハ勿論デアリマス。

斯ク軍縮會議ガ遂ニ決裂ニ相成リマシタケレドモ、日本帝國ト致シマシテハ、同會議ニ出席シテ居ル主要海軍國ニ對スル和親政策ニハ少シモ變更ヲ認メナイノデアリマス、特ニ英米兩國トハ、帝國ハ傳統的、歴史的親善ノ關係ニアルノデアリマシテ、日米兩國ハ太平洋ヲ東西ニ隔テタル地理的關係ニ於テ活動ニ各々其分野ノアル以上、兩國ノ間ニ衝突ナドハ起リ得ナイ譯デアルト思フノデアリマス。又英國トハ世界各方面ニ亘ル政治經濟上ノ利害ノ錯綜ニ付キマシテ能ク其調節ヲ圖リ、傳統的親善關係ヲ維持シテ行クベキコトハ當然ノコト、信ズルノデアリマス。英國自治領トノ間ハ益々友好ノ關係ヲ増進シ、通商交通モ密接トナリツ、アルノデアリマス、濠洲ニ對シマシテハ曩

ニ「レーサム」外相ノ親善使節ニ答フル爲メ出淵大使ヲ特派シ「ニュージランド」ヲモ訪問セシメ、同方面ト帝國トノ親交増進ニ努メテ參ツタノデアリマス。又帝國ハ南洋方面ニ對シマシテハ、一ニ經濟通商ノ發展ヲ期シマシテ、平和親善ノ關係ヲ増進セシコトヲ望ンデ居ル次第デアリマス。此ノ意味ヨリ致シマシテ、最近新ニ成立シマシタ、比律賓聯邦ノ圓滿ナル發展ヲ衷心ヨリ希フモノデアリマス。

帝國ノ對外貿易ガ年々増加進展ヲ續ケテ居リマスコトハ、國內ノ生産力ノ發展ト共ニ洵ニ人意ヲ強ウスル次第デアリマス、此趨勢ハ輸出入雙方ニ亘ツテ居ル狀況デアリマシテ、眞ニ貿易國トノ間ニ共存共榮ノ實ヲ擧ゲテ居ルノデアリマス。各國間ノ貿易ノ健全ナル發達ハ、世界經濟ノ振興國際和親ノ促進上缺クベカラザルモノデアリマス、コトハ今更言フヲ俟チマセヌ、然ルニ拘ラズ多クノ諸外國ガ依然トシテ國際通商ノ自由ヲ阻止スルガ如キ、各種ノ制限措置ヲ採ツテ居リマスコトハ甚ダ遺憾デアリマス、元來原料品ノ供給ト製品販賣市場トノ確保ハ、現代國家、殊ニ我國ノ如ク人口多ク、資源ニ乏シキ國ニ取リマシテハ、其經濟的ノ存立上必須的條件デアアルノデアリマス。

是ガ爲ニハ通商自由ノ回復ニ依リ、不必要ナル貿易ノ制限措置ガ撤廢セラレ門戶ノ開放セララル、コトヲ必要トスルノデアリマシテ、國際政局ノ安定モ亦之ニ依ツテ始メテ達成セラル、モノト考ヘラレマス、徒ラニ障壁ヲ高クシ、益々世界ヲ狹隘ニシ紛爭軌轢ヲ繁クシテ參リマスコトハ、眞ニ文明ノ逆行ニ外ナラナイノデアリマス、世界到ル處人ト物トノ交通ヲ自由ニシテ、資源ノ開放及其利用ノ均霑ヲ實現スルニ於キマシテハ、茲ニ初メテ自由ト信賴トノ空氣ハ自ラ醸成セラレ、世界ノ平和ハ著シク増進セラ、コト疑ヲ容レヌノデアリマス。帝國政府ハ此見地ニ立チマシテ、關係諸國トノ間ニ、彼我相互ノ利害調節ヲ目的トシテ友好的ノ交渉ヲ行ヒ、出來得ル限り各國トノ通商ヲ増進スルヤウ、努力致シテ居ル次第デアリマス。客年中不幸加奈陀產品ニ對シマシテ、我が通商擁護法ヲ適用スルニ至リマシタケレドモ、其後兩國ノ間ニ完全ニ妥協ガ付キマシテ、我が眞意ノ徹底ヲ見、茲ニ通商擁護法ノ適用ガ廢セラレマシタコトハ洵ニ喜バシキコトデアリマス。

近時世界ノ有力ナル政治家ニシテ、恰モ自己ノ意見ヲ以テ他ヲ支配セントシ、之ニ聽從セザルモノハ平和ノ破壊者ナルガ如クニ唱道スルモノガアルノヲ見マスルノハ遺憾デアリマス。眞ニ自國ノ任務ヲ自覺シ、更ニ又他國ノ立場ヲモ理解シ、且ツ之ヲ尊重スルニ於テ、始メテ世界ニ對スル平和ヲ口ニスル資格ヲ有スルノデアリマス、他國ノ立場ヲ理解シ之ヲ尊重スルコトハ、他國ノ文化ヲ理解シ尊重スルコトニ依ツテ、之ヲ達成シ得ル場合モ多イノデアリマス。帝國ハ固有ノ文化ニ加フルニ、夙ニ歐米各國ノ文化ヲ輸入シテ之ヲ消化シ、斯クシテ今日ノ地位ヲ完成シテ參ツタノデアリマスガ今日ト相成リマシテハ更ニ進ンデ我が文化ヲ他國ニ紹介シテ、東西文化ノ融合ヲ期シ以テ各國間ノ理解ヲ進ムルト共ニ、世界ノ文化ニ貢獻シ、人類ノ平和ト幸福トニ資セネバナラヌト考ヘルノデアリマス。

以上述べ來リマシタ通り、帝國ノ國際關係ニ於ケル前途ハ極メテ複雑多岐デアリマスガ、併ナガラ其間ニ我が國際的地位ハ次第ニ向上發展ニ向ツテ居リマスノデ、私共ハ深ク國際聯盟脫退ニ關スル御詔書ノ御趣旨ヲ奉體致シマシテ、外ハ愈々信ヲ國際ニ敦クシ、内ハ官民各々其職責ニ淬勵シ、協戮邁往、以テ、此世局ニ處セネバナラヌト

大藏大臣ノ演說

諸君、茲ニ昭和十一年度歳入歳出總豫算ノ大要ヲ述ベ、併セテ我國經濟界ノ現狀ヲ説明致シマスコトハ、私ノ光榮トスル所デアリマス。

昭和十一年度歳入歳出總豫算ノ金額ハ、歳入歳出共ニ二十二億七千八百餘萬圓デアリマスガ、歳入豫算ハ經常部十四億五千百餘萬圓、臨時部八億二千六百餘萬圓デアリマシテ、歳出豫算ハ經常部十三億五千七百餘萬圓、臨時部九億二千餘萬圓デアリマス。之ヲ前年度豫算額ト比較致シマスルニ、歳入經常部ニ於テ一億千六百餘萬圓ヲ増加シ同臨時部ニ於テ五千三百餘萬圓ヲ減少シ、歳入合計ニ於テハ六千二百餘萬圓ヲ増加致シテ居リマス。又歳出經常部ニ於テハ四千七百餘萬圓ヲ増加シ、同臨時部ニ於テハ千四百餘萬圓ヲ増加シ、歳出合計ニ於テ六千二百餘萬圓ノ増加トナツテ居リマス。

我國歳計ノ状態ヲ概觀シマスルニ、國際情勢ノ現狀ハ、多額ノ國防費ヲ要シ、又地

方農村等ノ狀況ト累年ノ災害トハ、是等ニ關シ相當ノ施設ヲ行フノ要アル爲メ、國家經費ハ俄ニ縮減ヲ期シ難キモノガアリマス而シテ我が經濟界ノ現狀ハ其ノ根柢ヲ培ヒ源泉ヲ涵養スベキ時期デアリマシテ、未ダ一般的増稅計畫ヲ樹ツルニ適シマセヌ、其他諸般ノ事情ヲ考慮勘案致シマスルニ、我國財政ノ運用ハ、當分公債發行ニ俟タザルヲ得ナイノデアリマス。故ニ一たび公債政策ニシテ行詰リヲ生ズルコトアラシカ、國防産業等國家須要ノ施設モ、之ヲ繼續實施スルコトヲ得ザルニ至ルノデアリマス。仍テ昭和十一年度豫算ノ編成ニ當ツテハ、一面ニ於テ歳出ハ之ヲ緊要已ムヲ得ザルモノニ止ムルト共ニ、他面歳入ノ増加ニ付テモ工夫ヲ致シ、成ベク公債發行額ノ増加ヲ避ケ、以テ今後ニ於ケル公債政策ノ圓滑ナル運行ヲ圖ルニ努メタ次第デアリマス。

是ヨリ歳入豫算ノ大體ニ付説明致シマス、昭和十一年度歳入豫算ヲ前年度豫算ニ比較シマスレバ、租稅收入ニ於テハ酒稅及取引所稅ニ於テ若干減少致シマスガ、所得稅三千六百二十萬餘圓、營業收益稅千五百五十餘萬圓、砂糖消費稅九百二十餘萬圓、織物消費稅九百二十餘萬圓、關稅二千八百六十餘萬圓ノ増加ヲ首メトシ、各稅概ネ增收ト

ナリマスノデ、租税全體ニ於テハ九千六百餘萬圓ヲ増加致シテ居リマス。次ニ印紙收入ニ於テハ二百五十餘萬圓ヲ減少シ、官業及官有財産收入ニ於テハ森林收入五百三十餘萬圓、專賣局益金六百十餘萬圓ノ增收等ノ爲メ千五百四十餘萬圓ノ増加トナリ。其他ノ收入ノ増減ヲ加除シ、結局歳入經常部ニ於テ一億千六百餘萬圓ノ増加トナツテ居リマス、而シテ右増加額ノ中ニハ、製鐵業獎勵法改正ニ依ル所得税及營業收益税ノ増加二百九十餘萬圓、礦油關稅改正ニ依ル關稅ノ増加四百十餘萬圓、日本製鐵株式會社配當金ノ増加二百八十餘萬圓、競馬法改正ニ依ル競馬會納付金ノ増加百六十餘萬圓等ノ新規ノ歳入増加ヲ含ンデ居リマス。

歳入臨時部中普通歳入ニ於テハ、特別會計ヨリ一般財源トシテ千七百五十萬圓ヲ受入ル、ノ外、滿洲國國防費分擔金ニ於テ千四百六十餘萬圓、臨時利得税ニ於テ千百六十餘萬圓ノ増加ヲ致シ、其他ノ増減ヲ加除致シマスレバ臨時部普通歳入ハ、結局千四百餘萬圓ノ増加トナリマシテ、經常部、臨時部ヲ合計シマスレバ普通歳入ニ於テ一億六千百餘萬圓ヲ増加シテ居リマス。

次ニ歳出豫算ノ大體ヲ説明致シマス。昭和十一年度歳出豫算ニ於テハ前述ノ如ク現下ノ時局ニ鑑ミ、緊要ナル經費ニ限り之ヲ計上スルコト、致シタノデアリマスガ、滿洲事件費、陸海軍兵備改善ニ關スル經費、地方農村等ノ對策ニ關スル經費、爲替相場ノ低下ニ基ク經費等ヲ多額ニ要シマスノデ、結局歳出總額ハ二十二億七千八百餘萬圓ニ達シタ次第デアリマス。今其主要ナル經費ニ付キ申述ベマスレバ、滿洲事件費ハ一般會計ニ於テ外務省所管三百六十餘萬圓、陸軍省所管一億八千三百二十餘萬圓、海軍省所管九百四十餘萬圓、大藏省所管ニ於テ豫備費トシテ二百萬圓、合計一億九千八百四十餘萬圓デアリマシテ、之ニ朝鮮總督府及關東局特別會計ノ分三百七十餘萬圓ヲ加フルトキハ、總額二億二百十餘萬圓トナリ、前年度ニ比シ千七百八十萬餘圓ノ増加ヲ示シテ居リマス。陸海軍ノ兵備改善ニ關スル經費ハ、前年度ニ於テ既ニ本年度分ヲ豫定シタル額中、後年度繰越額ヲ除タキルモノ一億八千三百五十餘萬圓デアリマシテ、新規増加額ハ陸軍省關係ニ於テ經常部四百三十餘萬圓、臨時部七千五百二十餘萬圓、海軍省關係ニ於テ經常部千二百二十餘萬圓、臨時部一億二千四百九十萬餘圓、陸海軍

省關係新規増加額合計二億千六百八十萬餘圓トナリ、總計四億三十餘萬圓トナリマス。右ノ中陸軍省關係兵備改善ニ關スル經費ノ新規増加額ハ、常備軍隊、官衙、學校及教育訓練ニ關スル施設ノ改善ニ要スル經費ト、資財整備ニ要スル經費トデアリマス。而シテ前者ハ昭和十五年度ニ於テ其大綱ヲ完成スル計畫デアリ、經常部平年額三千四百六十餘萬圓、臨時部總額八千七百二十餘萬圓ヲ要シマス。又後者ハ臨時部ニ於テ昭和十一年度以降六箇年度ニ亘リ、總額四億圓ヲ支出スルノデアリマス。

地方財政ノ對策トシテハ窮乏町村ニ對シ財政援助ヲ爲スノ必要ヲ認メマシテ、是ガ爲メ内務省所管ニ於テ臨時町村財政補給金二千萬圓ヲ計上シタノデアリマス。尙ホ經濟更生計畫ノ樹立セラレ、自力更生ノ熱意アル町村ニ就キ、二箇年度ニ亘リ總額五百萬圓ノ特別助成ヲ爲ス計畫ノ下ニ、其本年度所要額トシテ農林省所管ニ於テ、農村經濟更生特別助成費三百萬圓ヲ計上シマシタ。

次ニ内務省所管ノ河川改修及砂防工事並農林省所管ノ第二期治水事業等ニ關スル新規經費ノ計上ニ付キ、相當ノ考慮ヲ拂ヒマシタ。其本年度所要額ハ六百三十餘萬圓デ

アリマスガ、後年度分ヲ含メタ經費ノ總額ハ、内務省所管ニ於テ直轄河川ノ改修費等二千五百六十萬餘圓、中小河川改良費補助六百八十餘萬圓、直轄砂防費及府縣砂防費補助三百萬圓、農林省所管ニ於テ第二期治水事業費八千萬圓、計一億千五百四十餘萬圓トナリマス。以上ノ外、馬政第二次計畫、液體燃料政策、中小商工業金融機關、貿易ノ振興、民間航空ノ助長ニ付テモ相當ノ經費ヲ計上シタノデアリマス。

本年度豫算新規増加ノ中、東北振興ノ爲メ計上シタ經費ヲ集計致シマスレバ、内務省所管ニ於テ五百餘萬圓、農林省所管ニ於テ二百九十餘萬圓、大藏、文部、商工、遞信ノ各所管ニ於テ八十餘萬圓、合計八百八十餘萬圓トナルノデアリマスガ、右ノ外各種ノ經費中ニモ、東北地方ニ割當テラル、額ガ相當アル見込デアリマス。外國爲替相場ノ低下ニ基イテ要スル經費ハ、一般會計ニ於テ七千二百五十餘萬圓、特別會計ニ於テ千二百八十萬餘圓、合計八千五百三十餘萬圓デアリマス。

尙ホ昭和十年ノ災害ニ對シマシテハ、取敢ヘズ第二豫備金支出ヲ行ヒ、應急ノ措置ヲ講ジタノデアリマスガ、引續キ昭和十年度追加豫算及昭和十一年度以降ノ豫算ニ於

テモ是ガ經費ノ計上ヲ要スルモノガアリマス。而シテ其昭和十一年度ニ計上ヲ要スルモノニ付テハ、其殆ド全部ヲ追加豫算ニ讓ルコト、シマシタ。

次ニ特別會計ハ近時其歲計狀態比較的良好ナルモノガアル等ニ顧ミマシテ、特別會計ノ資金等ノ一部ヲ、一般會計歳出ノ財源ニ充ツルノ方途ヲ講ジマスト共ニ、前年度ニ引續キ特別會計ヨリノ減債基金繰入額ヲ増加シ、以テ一般會計ノ減債基金ノ繰入額ヲ減少スル等、一般及特別會計相互間ノ調整ヲ圖ルコト、致シタ次第デアリマス。

今内譯ヲ申シマスレバ、特別會計ヨリ財源ノ受入千七百五十萬圓、特別會計減債基金繰入額ノ増加ニ伴フ一般會計歳出ノ減少二千三百七十餘萬圓、特別會計經費補充金ノ減少百萬圓、合計四千二百二十餘萬圓デアリマス。而シテ昭和十一年度豫算ニ於ケル歳入不足ノ金額ハ、前年度同様公債財源ニ依ルコト、致シマシタ。

前述ノ如ク公債發行額ノ増加ハ出來得ル限り之ヲ避クベキデアリマスノデ、昭和十一年度ニ於テハ歳入ノ自然増加見込額ヲ目安トシテ、其一般會計公債發行額ヲ前年度豫算計上額ヨリ減少セシムルニ努メタノデアリマス。而シテ昭和十一年度豫算ニ計上

シタル公債發行豫定額ハ、六億八千三十餘萬圓デアリマシテ、前年度本豫算計上額ニ比シ、六千九百三十餘萬圓ノ減少トナツタノデアリマス。昭和十一年度ニ於テ一般會計ノ歳出財源タルベキ公債ノ内譯ハ、震災善後公債七百萬餘圓、道路公債千萬圓滿洲事件公債一億七千三百九十萬餘圓、歳入補填公債四億八千九百四十萬餘圓、合計六億八千三十餘萬圓デアリマス。又特別會計ノ公債發行豫定額ハ朝鮮總督府二千二百八十萬圓帝國鐵道三千八百萬圓、通信事業千四百萬圓、合計七千四百八十萬圓デアリマシテ、之ヲ前年度豫算計上額ニ比較シマスレバ、五百二十萬圓ヲ減少シテ居リマス。結局一般及特別會計ノ公債發行豫定總額ハ、七億五千五百十餘萬圓トナリマス。

昭和七年以來政府ガ日本銀行引受ノ方法ニ依リ、發行致シマシタ公債ハ巨額ニ達シテ居リマスガ、幸ニシテ今日迄ハ良好ナル成績ヲ收メテ、其大部分ハ順調ニ消化セラレマシタ。殊ニ従前國債ノ消化ハ主トシテ大銀行ガ之ニ當ツテ居ツタノデアリマスルガ、最近ニ於テハ地方銀行、其他ノ金融機關等ノ國債買入高モ、相當増加スルニ至ツテ居リマスノミナラズ、尙ホ一般個人投資家ガ、銀行又ハ證券業者ヲ通ジテ國債ノ買

入ヲ爲ス者モ漸次増加スルノ傾向ヲ示シテ居リマス。右ハ現下ノ財政運行上喜ゾベキ現象デアリマシテ、今後ニ於テモ國債ニ對スル投資ガ、一層普及センコトヲ希望スル次第デアリマス。

次ニ一般經濟界ノ情勢ニ付テ申述ベマス、顧ミレバ金輸出再禁止以來我が經濟界ノ不況ヲ打開シ其振興ヲ圖ル爲メ、各種ノ方策ガ講ゼラレタノデアリマスルガ、政府ニ於テハ一般會計歳出ニ於テ必要ナル諸般ノ經費ヲ支出シタル外、米穀需給調節特別會計ニ於テモ年々多額ニ上ル國庫ノ負擔ニ於テ、米價ノ維持調節ニ努メ來ツタノデアリマス。尙ホ此外預金部資金ノ融通ニ依リ地方公共團體、各種組合等ノ事業ヲ助成致シタノデアリマシテ、即チ預金部ガ地方ノ産業開發、農村振興、金融疏通、社會施設、災害復舊等ノ爲メ供給致シマシタ低利資金ハ、外地ヲ含メテ昭和七年度乃至同十年年度ニ於テ、貸出決定額十八億千四百餘萬圓、昭和七年四月以降同十年末マデノ貸出濟額十二億八千九百餘萬圓ノ巨額ニ達シテ居ルノデアリマス。又從前既ニ融通シタル資金ニ付テモ貸出利率ノ引下、償還期限ノ延長等ニ依リ借入先ノ負擔輕減ニ努メ、以テ地

方經濟ノ回復ニ資シタノデアリマス、尙ホ簡易生命保險積立金ノ運用ニ於テモ、同期間内ニ於テ預金部ト略々同様ノ目的ノ爲メ、五億二千餘萬圓ノ貸出ヲ決定シ、貸出濟額ハ四億六千六百餘萬圓ニ達シマシタ。右ノ外一般民間事業資金ノ低利潤澤ナル供給ガ行ハレ殊ニ低金利ノ情勢ハ漸次普遍化シタノデアリマス。例ヘバ全國會社債ノ平均利廻ニ於テハ、昨年下半年期發行分ハ、昭和九年上半年期發行分ニ比シ二分六厘ノ低下ヲ示シテ居リ又全國普通銀行及不動産銀行ノ貸出金利ノ如キモ、近年著シク低下致シマシタ。斯ノ如キ潤澤ナル資金ノ供給ト、低金利ノ趨勢トハ事業界全般ニ活氣ヲ與ヘ、生産力ノ増進ヲ來スト共ニ、勞働ノ需要モ亦從テ増加スルニ至リマシテ、近年ニ於ケル景氣回復ガ是等ノ事情ニ基クモノナルコトハ、洵ニ顯著ナル所デアリマス。

最近ニ於ケル外國貿易ノ狀況ハ、年々目覺マシイ躍進ヲ示シテ居リマスガ、殊ニ昨年ノ貿易ハ、近年稀ニ見ル盛況デアリマシテ、内地及外地ヲ合セタル對外貿易總額ハ輸出二十六億三百餘萬圓、輸入二十六億千七百餘萬圓、輸出入合計五十二億二千餘萬圓ニ上リ、又貿易尻ハ千四百餘萬圓ノ輸入超過ニ止マリマシタ。之ヲ前年ニ比較致

シマスレバ、輸出ニ於テ三億四千五百餘萬圓、輸入ニ於テ二億千七百餘萬圓、輸入出合計ニ於テ五億六千二百餘萬圓ノ、ソレゾレ増加ヲ示シ、輸出額及輸出入合計額共ニ今日マデニ於ケル最高記録デアリマス。尙ホ貿易尻ニ於テモ著シキ改善ヲ見タノデアリマシテ、一昨年ノ入超一億四千二百餘萬圓ニ比シ、一億二千七百餘萬圓ノ入超減ヲ示シ、又之ヲ内地ノミニ付テ見マスレバ、一昨年ノ入超一億千餘萬圓ニ對シ昨年ハ二千六百餘萬圓ノ出超トナツタノデアリマス。斯ノ如キ貿易ノ改善ハ、畢竟國民多年ノ努力ノ然ラシムル所デアリマスガ、國際通商上ニ於ケル各種ノ障礙ニ鑑ミ、我國トシテハ常ニ海外ニ於ケル貿易事情ノ變遷ニ對シ、細心ノ注意ヲ怠ラザルノ要アルコトハ申スマデモアリマセヌ。

右ニ述ベマシタ如キ貿易ノ改善ニ加ヘ、貿易外收支ニ於キマシテモ海運關係收入、海外事業益金、外國人本邦内消費等ノ増加ニ依リ、經常的收支ハ相當ノ受取超過額ノ増加ヲ持續致シテ居リマス、尤モ臨時的收支ニ於キマシテハ、滿洲其他海外ヘノ事業投資等ガ相當多額ニ達シマス爲メ、支拂超過ノ状態ヲ呈シテ居リマスガ、政府ハ外國

爲替管理法ノ適實ナル運用ニ依リ、國際收支全般ノ調整ニ努メテ來タノデアリマシテ其結果我國ノ對外爲替相場ハ、兩三年來圓價自體ノ事由ニ基ク變動ハ殆ド之ヲ見ル事ナク、大體ニ於テ安定ヲ保ツテ居ルノデアリマス。

次ニ友邦滿洲國ニ於キマシテハ、治安モ次第ニ回復セラレ、諸般ノ施設モ漸次整備セラレツ、アルノデアリマシテ、之ニ伴ヒ日滿兩國ノ經濟關係ハ益々緊密ノ度ヲ加ヘ兩國經濟ノ正常ナル發展ガ愈々促進セラルルニ至リマシタコトハ、洵ニ欣快ニ堪ヘナイ所デアリマス。殊ニ同國ニ於キマシテハ、最近國幣價值安定並ニ幣制統一ノ方針ヲ確立シ、國幣ノ對外價值安定ノ對象ヲ、我國ノ圓貨ニ求ムルノ方針ヲ採リ、諸般ノ施設ヲ講ジテ居ルノデアリマスガ、我國ト致シマシテモ、同國トノ特殊關係ニ顧ミ、出來得ル限り之ニ協力スルコト、致シタ次ハデアリマス。

之ヲ要スルニ、最近ニ於ケル我國經濟界ハ過去數年ニ亘ル官民ノ不況克服ニ對スル努力ニ依リマシテ、幸ニ景氣回復ノ道程ヲ辿リツ、アリマス。併ナガラ我國財政經濟ノ前途ニハ、尙ホ幾多ノ問題ヲ存シテ居ルノミナラズ、現下國際經濟ノ複雜多難ナル

情勢ニ想到スル時ハ、官民一致各々其最善ヲ竭シテ、今後ノ難局ヲ打開シ、以テ國運ノ伸張ニ貢獻スルノ覺悟ガナケレバナラヌト信ジマス。

終ニ臨ミ本豫算案ニ對シ何卒協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス（拍手）

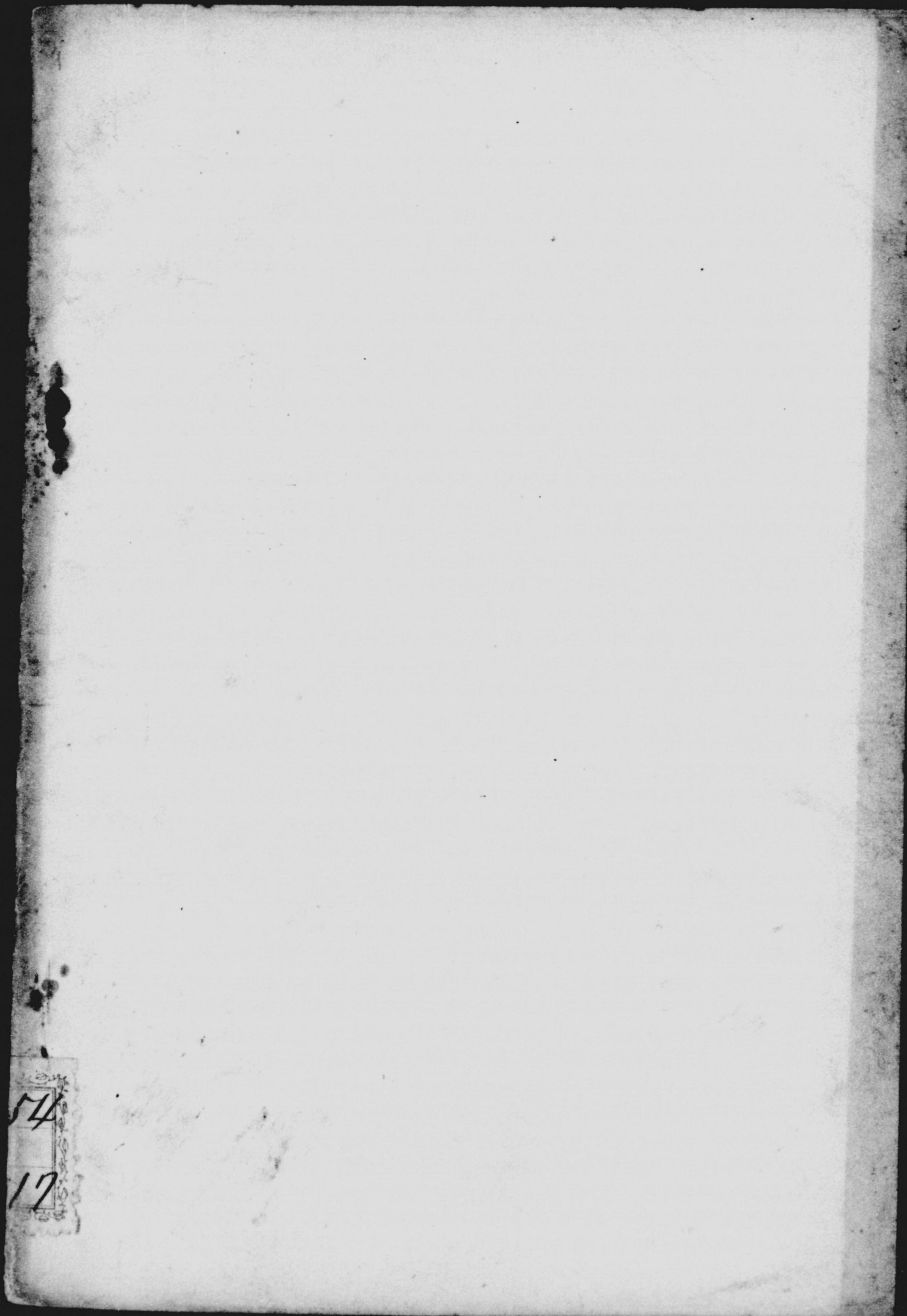
昭和十一年一月三十日印刷納本
昭和十一年二月一日發行

編輯兼發行者 昭 和 會
東京市芝區琴平町一番地五號

右代表者 林 路 一
東京市芝區南佐久間町二丁目八番地
印刷者 伊 藤 其 雄

東京市芝區南佐久間町二丁目八番地
印刷所 富久呂商會印刷部

（非賣品）



54
17